

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL <http://jbwf.jp>

沙羅の樹

Saranoki

No.19

2024年春号

4月10日発行

令和6年 修正会が 開催されました

ホテル雅叙園

二月十九日、ホテル雅叙園東京において修正会が開催され、全日本仏教尼僧法団笹川悦導理事長御導師のもと法団上人方々にご出仕をいただき、修正会法要が厳修されました。

法要後に、笹川師は能登半島地震で亡くなられた方々へのご冥福を祈られ、「互いに今日一日、今を丁寧に生きていきましょう」と、お言葉を述べられました。

次に東伏見会長より新年のご挨拶があり、昨年の七十回記念大会のお礼を述べられました。次に能登半島地震災害に触れて、青蓮院門跡での得度式の際に親鸞聖人がお詠みになった『明日ありと思ふ心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬ

ものかは』を引用し、「日延ばしにすると自分の気持ちがそして思いが薄れていく、明日はないかもしれないという気持ちで今を大事に生きていきましょう」と結びました。

続いて、昨年末に文化庁長官表彰を受賞された末廣参与に記念品と花束が東伏見会長と吉田副会長から贈呈されました。受賞報告に立った末廣参与は「戦後のまだまだ女性に対して理解のない時代に、山本杉さんたちが福祉のための仏教婦人会を組織的に立ち上げられ、その後七十年間、林恵智子元事務局長(現顧問)が福祉や様々な活動を継続し発展させていきました。本当に大変なことであり、今感謝しかありません。文化庁の方からは宗教界の女性の日頃の活動に光を当てたかったといわれました。宗教界の女性には、家族を亡くし悲しい思いをされている方々に日常的に寄り添い、愚痴を聞き、そして喜びを分かち合っておりま



す。また地域や学校での諸役にも勤しみ、茶道、華道、それからご詠歌等の日本の文化の伝承に努めてもおり、同時に数々の福祉活動も展開しています。これらの地道な活動が認められたことにとっても感謝しております」と挨拶されました。

その後、立川氏が落語『転宅』を披露し、笑いに溢れた和やかな雰囲気の中、加用副会長の乾杯で懇親会が始まりました。

最後に花岡理事長は能登の被災地支援として支援金がありました。

現在140万円が寄せられていると報告。「支援先については検討中です。そして私たちが支援しているウクライナの中・高学生は今山梨校に避難しているのでご安心ください。今後は現地の声を聞きながら支援をやっていきたい」と皆様のご協力への感謝を述べました。

会員の皆さまと久方ぶりに和気あいあいの和やかな時を過ごすことが出来ました。

私たちの 活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

3月28日現在(順不同・敬称略)

▼新入会員紹介

賛助会員 浄土真宗本願寺派築地本願寺
正会員 大塚哲子 岩崎良子
土居祐子 宮永清美 丸 秀子
木村双美子 遠賀理沙 須藤喜久代

▼ご芳志を頂きました方々

念法眞教 花岡眞理子 梨本三千代
本多端子 遠賀令子 海老塚るり子
桶屋良法 末廣久美 大塚哲子

▼社会福祉基金にご協力の方々

西本願寺

▼花の種運動にご協力の方々

佐々木公子 河原時子 鈴木トヨ子
本多端子 岩脇孝子 長尾節子
善照寺 甲山寺

▼写経運動にご協力の方々

高橋節子 村上和之 海老名初江

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

佐々木公子

▼タオル寄贈者

花岡眞理子 本多端子 湯浅正江
高崎悦子 末廣 綾 海老名初江
大越昌子

[発行人] 花岡眞理子

[編集人] 日比野郁皓 山口偉理子 末廣 綾

[編集・デザイン] 合同社まに

1月

1日 「全佛婦」138号発行

23日 第11回 子供たちに豊かな地球をつなぐキャンペーン会議
(東京グランドホテル)

29日 第5回運営委員会(本山東本願寺)

第127回文化講座(〃)

(公社)日本仏教保育協会新年懇親会(東京プリンスホテル)

2月

1日 (公財)全日本仏教会年頭のつどい(ホテルグランヴィア京都)

14日 (公財)全日本仏教会第41回理事会(オンライン会議)

19日 新年修正会(ホテル雅叙園東京)

27日~29日 花の種発送作業(本山東本願寺)

28日 全日本仏教会第11回代議員会議(オンライン会議)

3月

4日 (公財)国際仏教興隆協会第36回理事会(オンライン会議)

5日 第34回理事会(代々木会議室)

11日 第128回文化講座(牛久大仏)

31日 災害時のトラウマ・グリーフケア講座(念法眞教 金沢念法寺)

天台宗 養玉院如来寺 参拝

2月19日、修正会に、午前10時半から約1時間20人が品川西大井の養玉院如来寺様に参拝、ご住職にお寺の歴史、ご仏像、建築物の由来などを説明していただきました。

養玉院如来寺様について—東海道新幹線の品川駅を発車して2分ほどで右手にこんもりとした木立が見えてきます。そこが天台宗養玉院如来寺、通称大井のおおぼとけです。

上野寛永寺の一山であった養玉院と芝高輪にあった如来寺が合併して大正十二年に現在の場所に移りました。通称名「おおぼとけ」高さ三メートルの座像の五智如来は大日如来を中尊として釈迦如来、阿弥陀如来、宝生如来、薬師如来の五体の如来を総称した呼び名であります。養玉院本殿には木造釈迦如来を本尊として、弟子である迦葉・阿難の脇侍を従えた等身大の三尊があります。

とてもモダンな檀信徒用の建物と立派な御本堂は素晴らしく、木造の建物の中に安置された5体の巨大な五智如来像をお参りさせていただいたときには、全員その大きさに圧倒されました。

✓ 第129回文化講座

演題：能登地震被災者支援の在り方—
トラウマとグリーフのケアについて

日時：4月19日(金)14時~15時30分

講師：神仁師

(公財)全国青少年教化協議会 代表執行理事
東京慈恵会医科大学付属病院 scw/チャブレン

会場：天王寺

✓ 第12回総会

日時：5月31日(金)13時~14時30分
会場：浄土真宗本願寺派 築地本願寺

✓ 第130回文化講座

日時：6月13日(木)
内容：奈良仏教セミナー(予定)

今後の予定

➔ 順次ご案内をいたします。

✓ 第71回大会

日時：10月30日(水)11時~14時30分
会場：東京プリンスホテル「マグノリアホール」

令和6年 能登半島地震 災害支援



令和6年能登半島地震への支援金は2月末日時点で

1,804,000円となりました。

支援先として石川県七尾市を拠点に震災直後から活動をしている神戸被災地NGO協働センターに、そして子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン実施三団体（全青協、日仏保、全日仏婦）での中長期的活動支援に活用させていただく予定でございます。



能登半島地震 災害支援について

（公財）全国青少年教化協議会
代表執行理事 神仁

1月1日の能登半島地震発生からおよそ3カ月が経ちました。石川県庁の発表によれば（3月13日時点）、この災害によりお亡くなりになられた方は、241名（内、災害関連死15名）、負傷者1,429名、被災住家屋8万629棟に及ぶと報告されています。また、各市町が開設している1次避難所への避難者は4,801名、県が開設する1・5次及び2次避難所への避難者は、

は、それぞれ109名、4,218名となっております。車中で生活している方々もおり、県外等への避難者を合わせると2万名以上の方々が未だ困難な生活を送っています。

寺院の被害も甚大で、輪島市の總持寺祖院を含め各宗派の寺院が深刻な被害を受け、完全倒壊したお堂等も少なくありません。珠洲市では建物の下敷きになってお亡くなりになった寺院関係者もいらっしやいます。

全青協では、発災から10日経った11日から4日間石川県の被災地に入り、被災寺院へのお見舞い、各次避難所の開設状況についての調査、県社協・市社協や災害復興本部を訪問しての災害全容の把握と緊急・復興支援のための情報収集等に努めました。また、スタッフや学生ボランティアが、2月、3月に各1回ずつ関係団体と協働して避難所への物資搬入や炊き出しを行っています。

「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」実施三団体では、去る1月23日に

しています。

地震以降、子どもの様子も変化しています。何をすると、母親の姿が見えなくなると、不安になり傍から離れない子どももいます。母親は「いっつになつたら、治るのだろう」と心配そうにわが子を見つめていました。

また一方で、障害者の人たちも地震による影響が出ています。グループホームが被災して、避難生活を続けている人たちも、長引く避難生活で疲労の色は濃くなるばかりです。ある施設では工事の段取りは

緊急会議を開催し、次のような5項目の能登地震支援概要をまとめました。

- ① 不足している生活物資の支援
- ② トラウマ&グリーフケアについての講習会の開催
- ③ ころのケアに関するガイドライン冊子の配布
- ④ 定期的な炊き出しやイベントの開催
- ⑤ 経済的な困窮状態にある生

徒への奨学金の供与

3月31日に、金沢市内で第一回目となる「災害時のトラウマ&グリーフケア講座」を、金沢念法寺のご協力を得て開催しました。東日本大震災の支援同様、今後、物心両面での復旧・復興まで、中・長期にわたる支援活動に、多くの方々のご助力・ご協働をお願い申し上げます。

多謝合掌

被災地レポート

仏教タイムス 棚井里子

1月21・22日に石川県七尾市で寺院基地の復旧作業をする石材業界の団体と同行し、被災寺院を取材しました。お堂が倒壊した寺院はまだ手つかずの状態、住職たちは「どこから手をつけていいのか」と茫然としていました。避難所で夜を過ごす住職、高齢の住職や寺族は市外に避難している寺院もありました。再建の費用をどう捻出したらいいかと不安を口にしながらも、被害の大きい奥能登を気遣って、何とか踏ん張っていました。

震災から3週間経って、初めて来たボランティアに「本当に有り難い」と何度も言う住職さんたち。石材店の職人さんもまたその感謝の言葉に力づけられていました。ボランティアの受け入れが遅れていますが、復旧復興に多くの人出が必要です。もちろん能登に行けなくても出来る支援はある。全仏婦と長年協力関係にある被災地NGO協働センターは七尾市を拠点に活動していますが、現場で働く人のサポートも大切な支援だと思います。

NGO協働センター 増島智子

いつもご支援ありがとうございます。今年1月1日に発生した能登半島地震では、国からの衣食住の支援の遅れが目立っています。自主

避難所はもちろんのこと指定避難所すら災害救助法に基づく食事や物資の配給が届いておらず、避難住民が自ら3食食事を作ったり、地元住民やNGO・NPOなどの支援に頼っている避難所が数多く見受けられます。

2ヶ月経ったいまも一部地域では断水が続き、指定避難所や自主避難所を除いては、



Thanks

ご協力をいただきました皆さまのご厚意に深く感謝いたします。

令和6年能登半島地震への 支援金ご協力者 (順不同・敬称略)

松井百合子 大堀カヨ 清水則子
窪川香薫 高山昭子 高崎悦子
望月みゆき 田代弘興 小峰立丸
来馬和子 木田正子 中野日演
棚橋弘子 村田寛子 鈴木トヨ子
山口偉理子 平和子 本多昭子 本覚寺
丑田ゆかり 小池弘三 長岡道子
吉田真理 本多端子 齋藤昭俊
平林宣子 南澤道人 高橋厚子
岡野鄰子 日吉観 静岡県仏教会
加用稔子 柴田龍太郎

大越昌子 藤田隆乗 傳通院 湯浅正江
米田陽子 林房江 富田記代 小澤憲珠
金嶺寺 末廣照純 末廣久美 星野和美
諸角美智 加藤恵委子 利澤照代
小峰みな子 念法眞教 青蓮院門跡
総本山知恩院 天台宗 圓照寺門跡
大本山池上本門寺 大本山善光寺大勧進
正覚院 真宗木辺派仏教婦人連合会
石塚慈雄 梨本三千代 日比野郁皓
村主みや子 花岡眞理子 海老塚和秀
海老塚るり子 大橋百合子 佐々木公子
海老名初江

募金箱（1月29日及び2月19日出席者）

